



第18回 世論調査結果

国際交流について

昨年十二月に実施した「第十八回世論調査」の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。今回のテーマは「国際交流について」です。いま、私達のまわりでは急速に国際化が進んでいます。こうした社会の変化に富士市民はどうしているか、また市はどのような対応をすべきか真剣に考えていかなければなりません。そこで市民の皆さんが国際交流についてどのような考えをお持ちかお聞きしました。

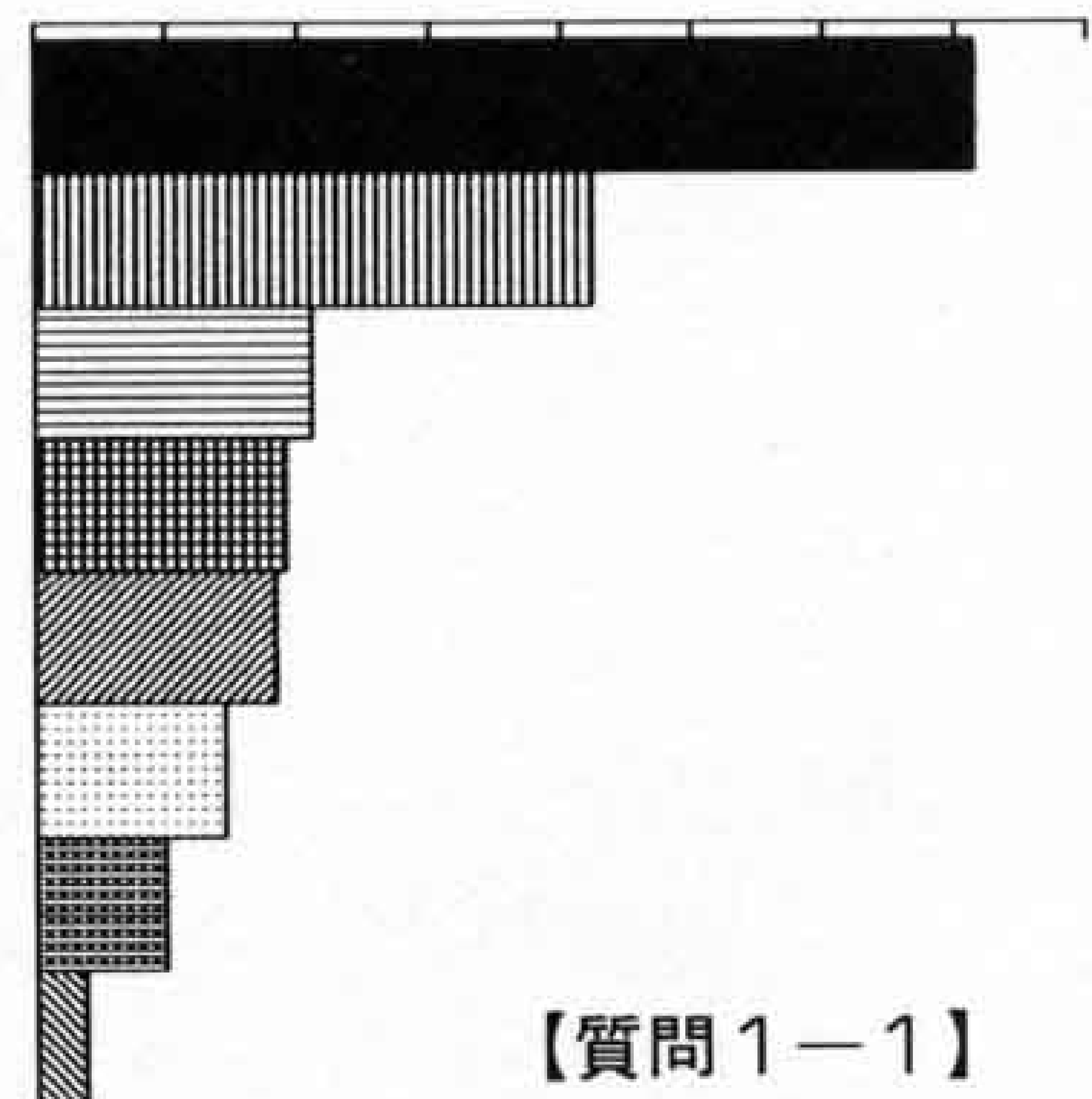
調査は、住民基本台帳から無作為抽出した三千人の皆さんにお願いしました。

もう始まっています

# 私たちの町の国際化

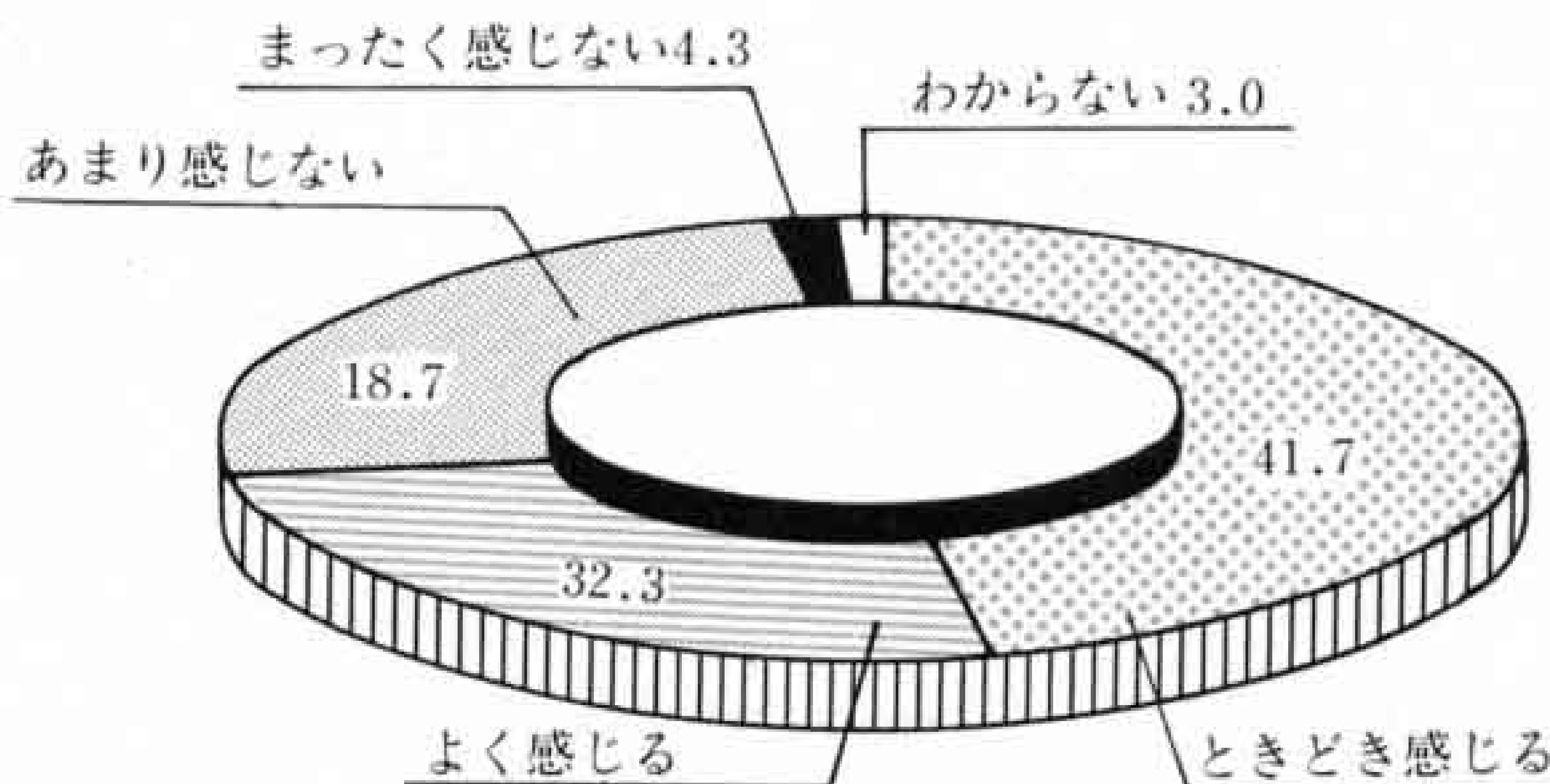
0 5 10 15 20 25 30 35 40 (%)

テレビや新聞、雑誌などの報道から  
 食料品などの輸入品がふえたから  
 町や職場で外国人をよく見かけるから  
 ベトナム等の難民が急増しているから  
 家族や友人の海外出張や長期滞在から  
 海外旅行に興味があるから  
 嘉興市と友好都市提携を結んだから  
 帰国子女・その他



【質問1-1】

【質問1】



Q-1  
 Q-1-1

■あなたは、最近日常生活の中で外国とのかかわりを感じますか。  
 ■「よく感じる」、「ときどき感じる」と答えた方に伺います。それはどんな理由からですか。

感じています

国際化の予感

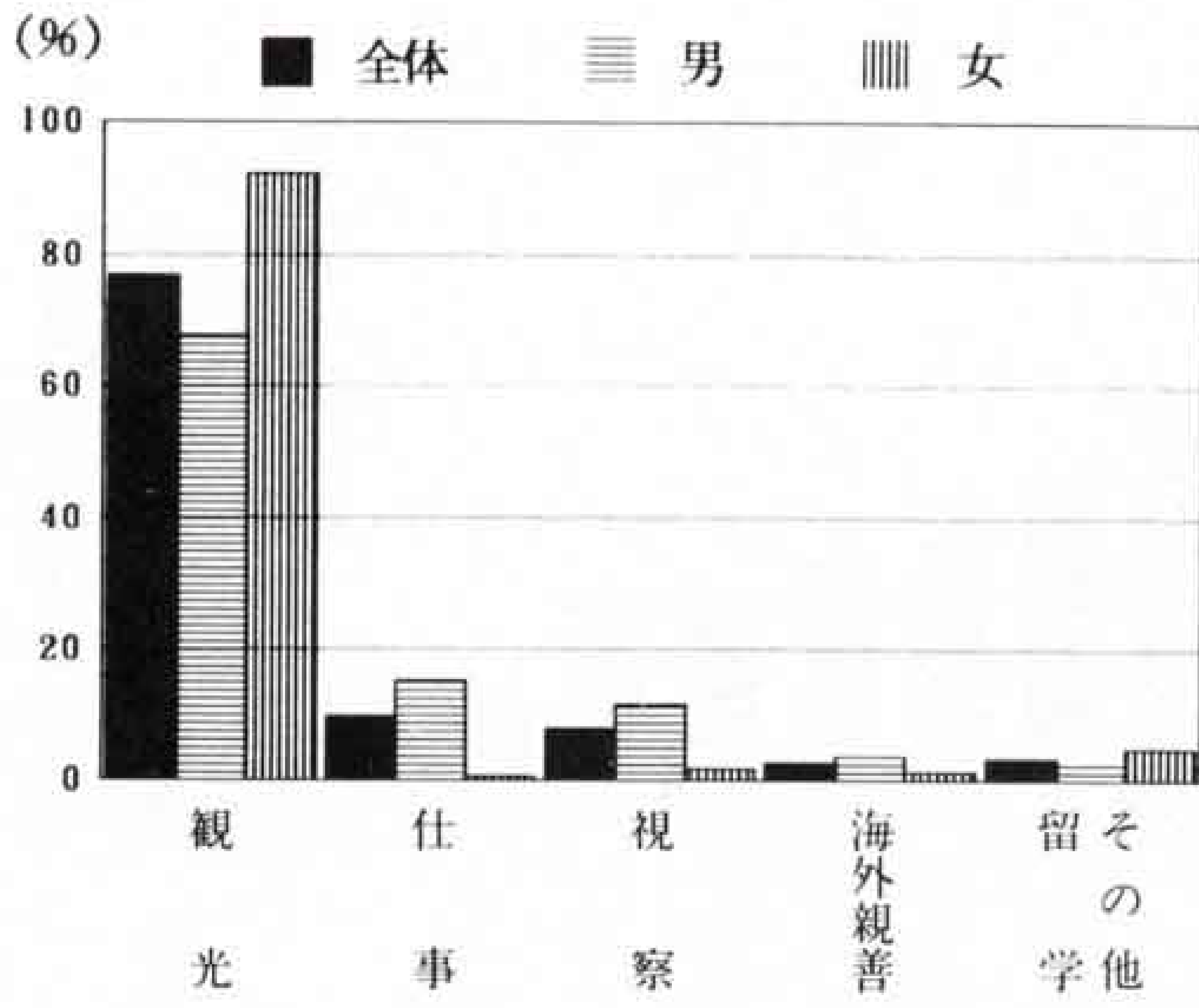
問一では市民が日常の暮らしの中で外国とのかかわりを感じているか尋ねてみました。最も多い回答は「ときどき感じる」で四一・七%、続いて「よく感じる」三二・三%、「あまり感じない」一八・七%の順になっています。この上位二位までの合計で七四%を占め、多くの市民が日常生活で海外の影響を感じていると言えます。

こんな身近に

外国が...

次に「よく感じる」、「ときどき感じる」と答えた七四%の人にその理由を尋ねたところ、「テレビや新聞、雑誌」が三五・七%と報道によるものが一番多く、続いて「食品、衣料、雑貨等の輸入品がふえたから」が二一・二%、「町や職場で外国人を見かけるから」一〇・五%、「家族や友人の海外出張・長期滞在」九・一%の順となっており、日常生活のさまざまな場面に国際化が深く入り込んでいくことがうかがわれます。

(3)



【質問2-1】

QQQ  
| | |  
222  
| | |  
2 1

■あなたは、外国へ行ったことがありますか。  
(ただし、戦後に限ります)

■「ある」と答えた方に伺います。外国へ行った目的は何ですか。

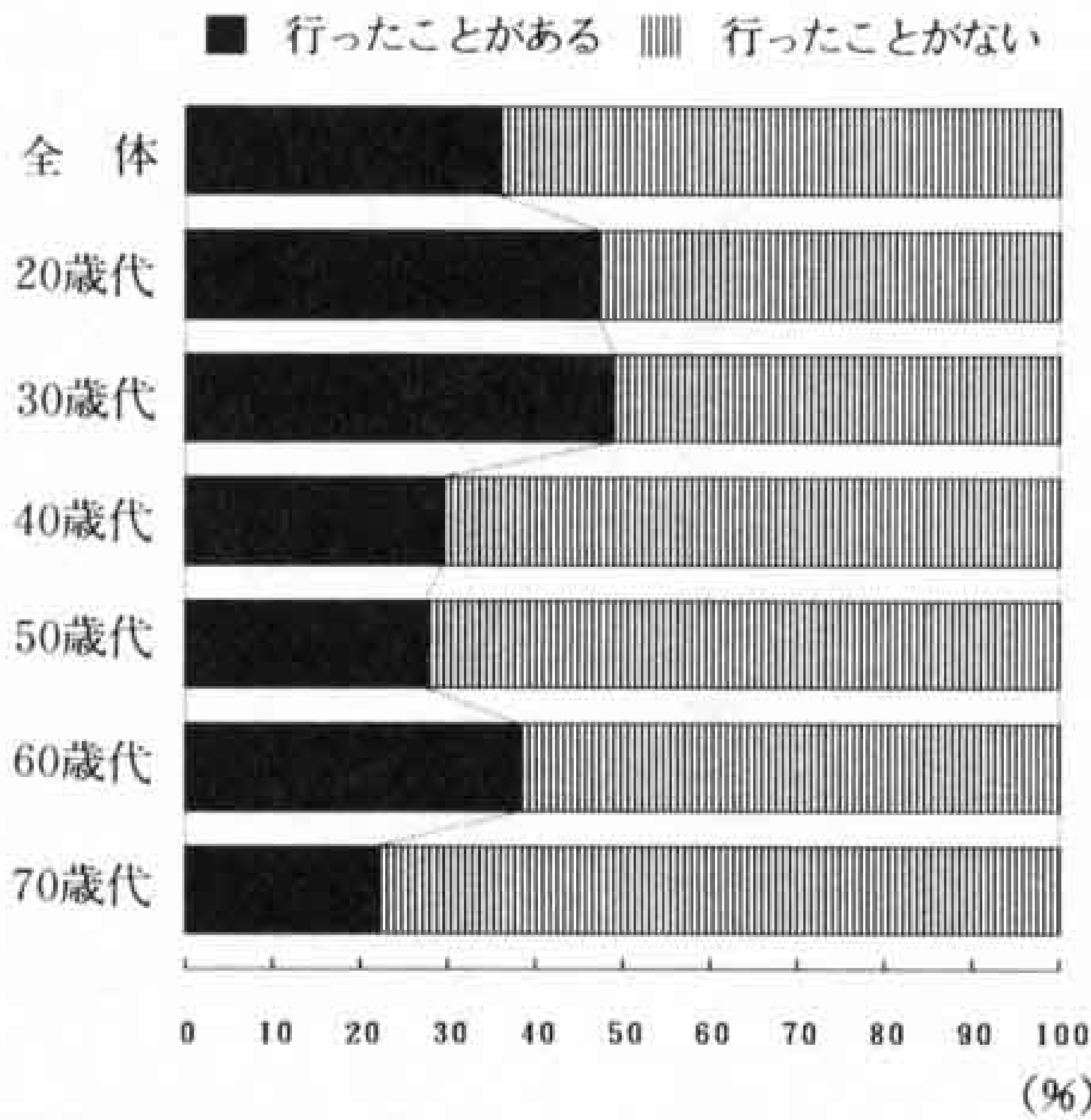
■「ない」と答えた方に伺います。あなたは、外国へ行ってみたいと思いますか。

**行ってみたい、いつかきつと行く外国。**

次に、海外経験のある人に渡航の理由を尋ねてみたところ、「観光」が七六・八％で圧倒的に多く、続いて「仕事」九・六％、「視察」七・八％の順でした。

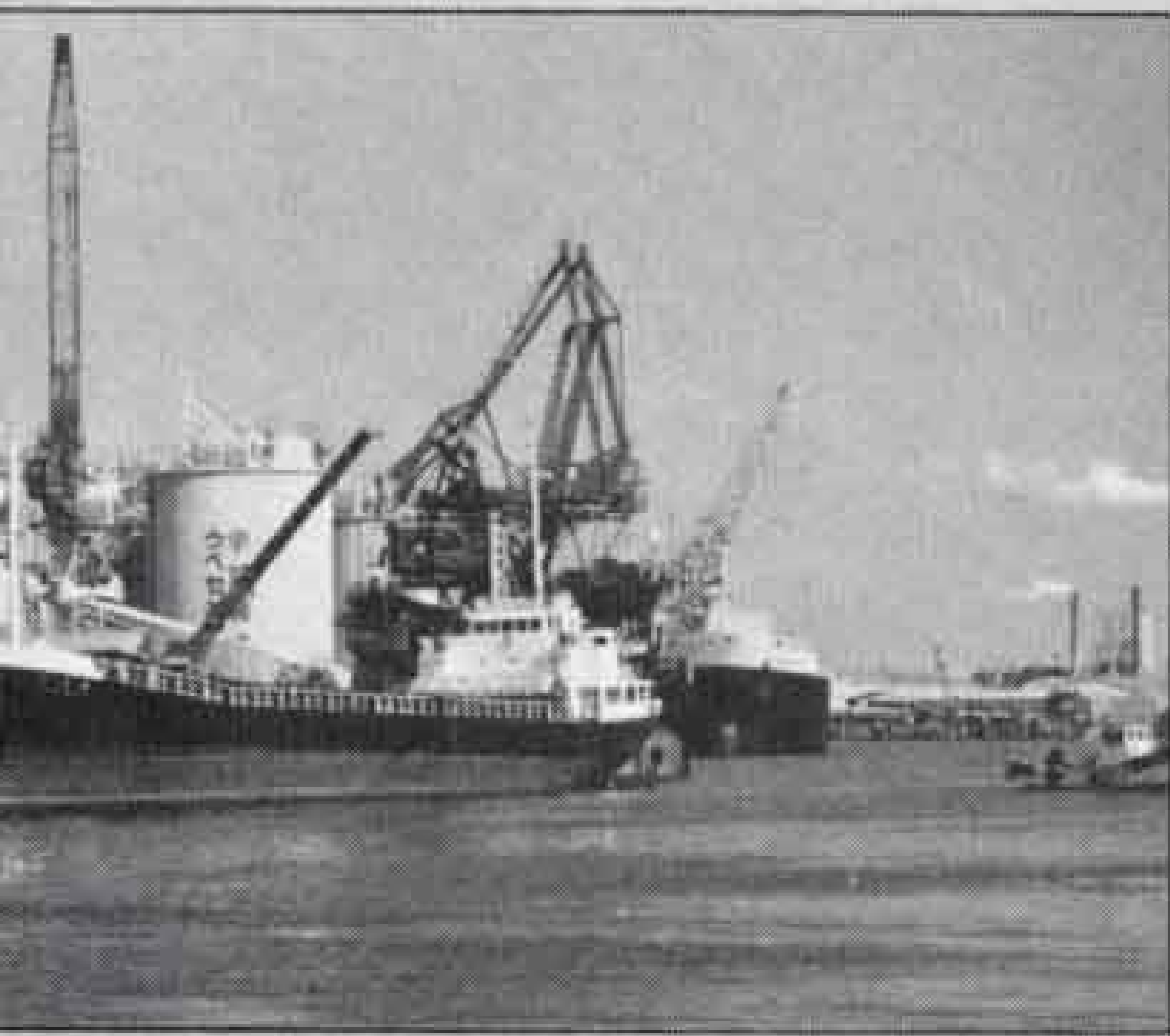
また、海外経験のない人に今後、外国へ行きたいかどうか尋ねたところ、「行きたい」が六七・七％となっており、市民の外国への関心の高さがうかがわれます。

【質問2】



**二十歳、三十歳代の市民の約半数は海外経験者**

戦後、海外へ行った経験があるか尋ねたところ「ある」は三五・七％で前回、昭和三四年の調査一五・四％の二倍以上となっています。これを、年齢別で見ますと二十歳代四七・四％、三十歳代四九％と全体を大きく上回り、おおむね二人に一人が海外を体験していることとなります。



**田子の浦港は外国人がいつぱい**

国際貿易港・田子の浦港には、年間二千六百人もの外国人が入港しています。

外国人がいつぱい

田子の浦港は

まちのデータ  
まちの声

● 回収結果 ●

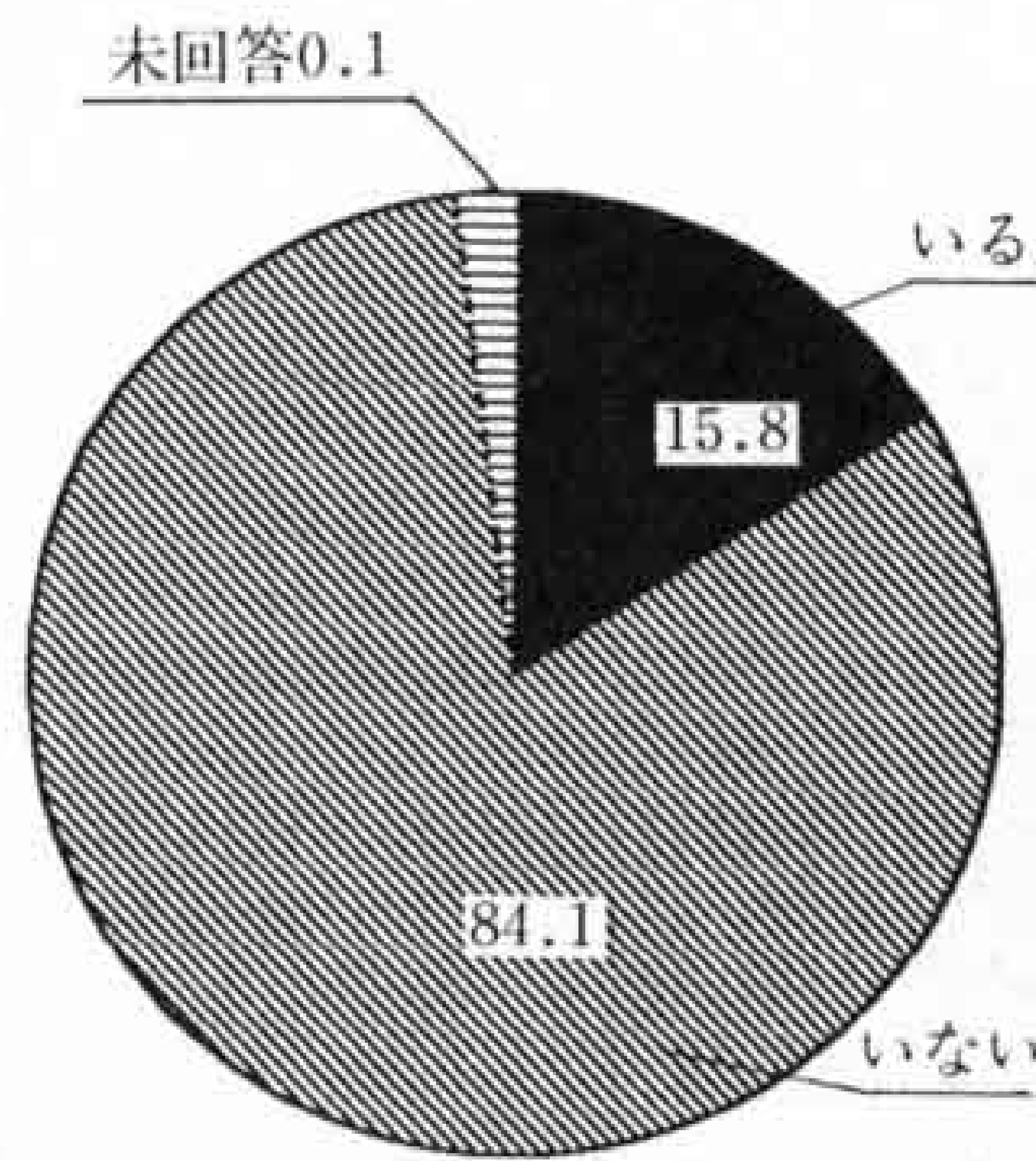
- ◇調査対象者 3,000人
- ◇回答者 1,404人
- ◇回収率 46.8%

※結果は百分率で表示しました。表示した百分率は少数点以下第2位を四捨五入してありますので、合計が100にならないことがあります。

**きっかけは、仕事で 旅行で、留学で**

前問で「いる」と答えた人に外国人と知り合ったきっかけを尋ねたところ、「仕事で」が最も多く三六・五％、続いて「旅行で」一二・二％、「外国語教師として」八・一％の順となり、仕事をきっかけとした交流が主であることがわかります。

これを男女別で見ると、「仕事で」は男四九・二％、女一九・一％、また外国語教師として「は男二・三％、女一六％となっていて、きっかけには男女差があるようです。



【質問3】

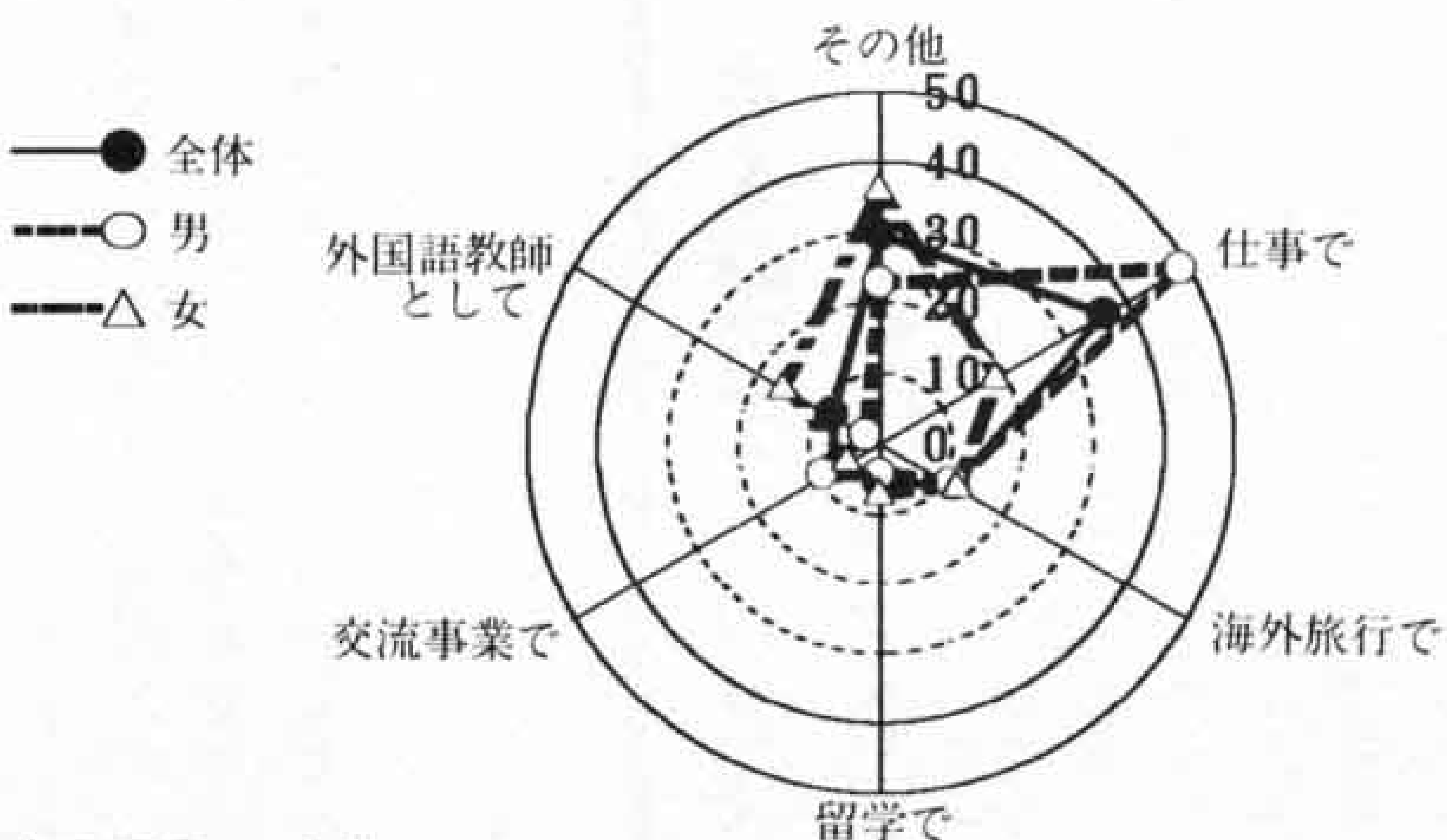
**私は外国人の友人がいます**

国際化が進み、市民の中にも外国人と知り合う人がふえています。問三で「外国人の友人や知人がいますか」という質問をしたところ、一五・八％の人が「いる」と答えています。

これを、職業別で見ると自営業が一九・六％、会社員が一八・七％、また、年齢別では、二十歳代一九・四％、三十歳代一九・八％、四十歳代一七・四％とそれぞれ全体を上回っています。

Q-3  
Q-3-1

■あなたは、外国人の友人や知人がいますか。  
■「いる」と答えた人に伺います。そのきっかけは何ですか。

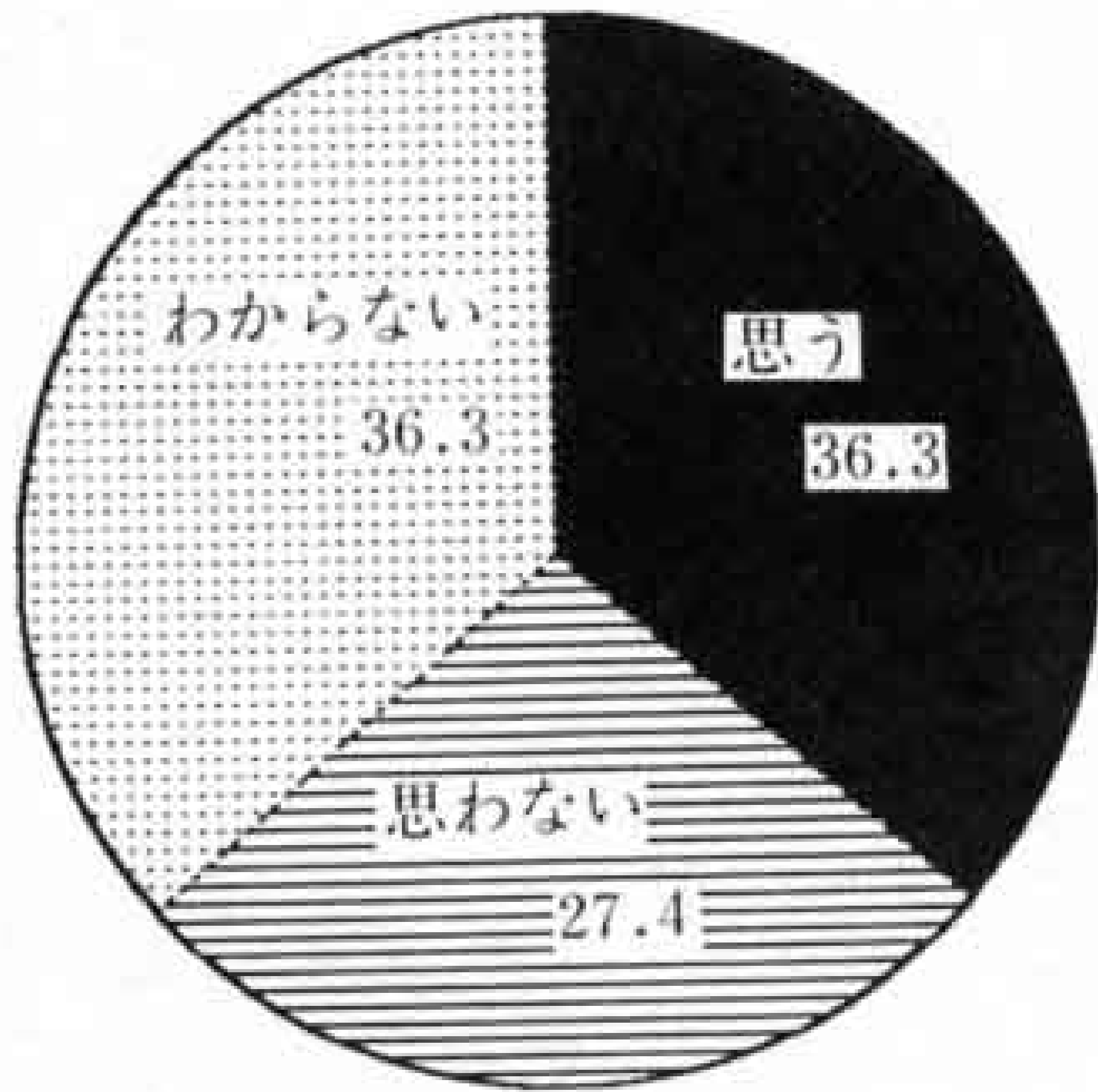


【質問3-1】

QQ  
| |  
65

■あなたは、市が海外派遣事業への援助、友好都市提携促進等いろいろな国際交流事業を行っていることを知っていますか。  
■あなたは、今後こうした事業に参加してみたいと思いますか。

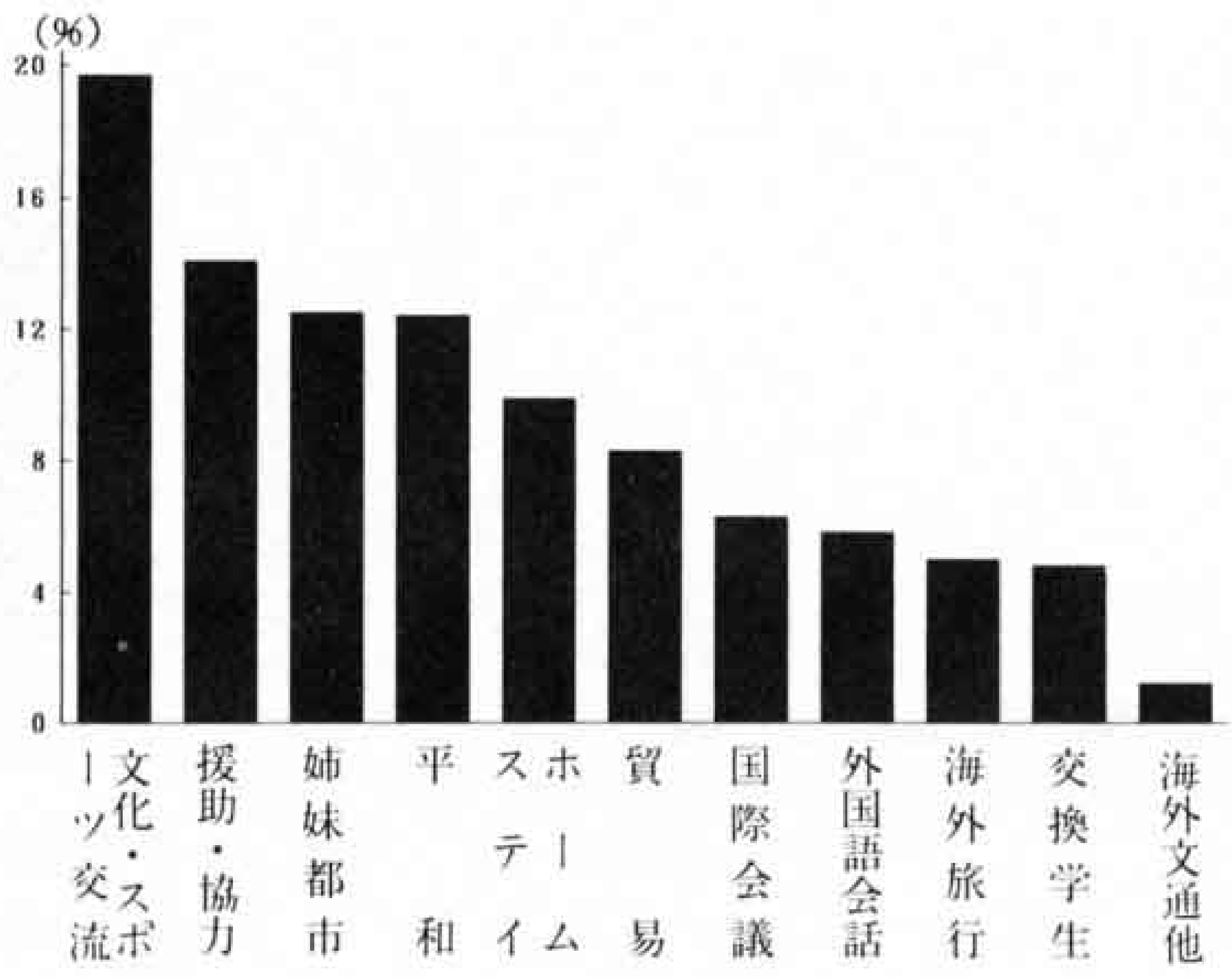
【質問6】



市役所には、国際交流室があつて国際交流に  
関係する事業を行つていますが、全体の五九・  
二%の市民がこうした事業を知っていました。  
また、全体の三六・三%の市民が、今後国際交  
流にかかわる事業に参加したいと思つています。

知っていますか

市の国際交流事業



「国際交流」からの連想は、「ス  
ポーツ・文化交流」一九・七%、  
「海外援助・協力」一四・一%、  
「姉妹都市提携」一二・五%、「平  
和」一二・四%の順でした。この  
ことから、ふれあい、助け合いが  
市民の「国際交流」に求めている  
イメージと言えそうです。  
また、年齢別で見ると三十、四  
十歳代では「スポーツ・文化交流」  
が、六十、七十歳代では「平和」  
の比率が高くなっています。

「国際交流」は、ふれ  
合い・助け合い

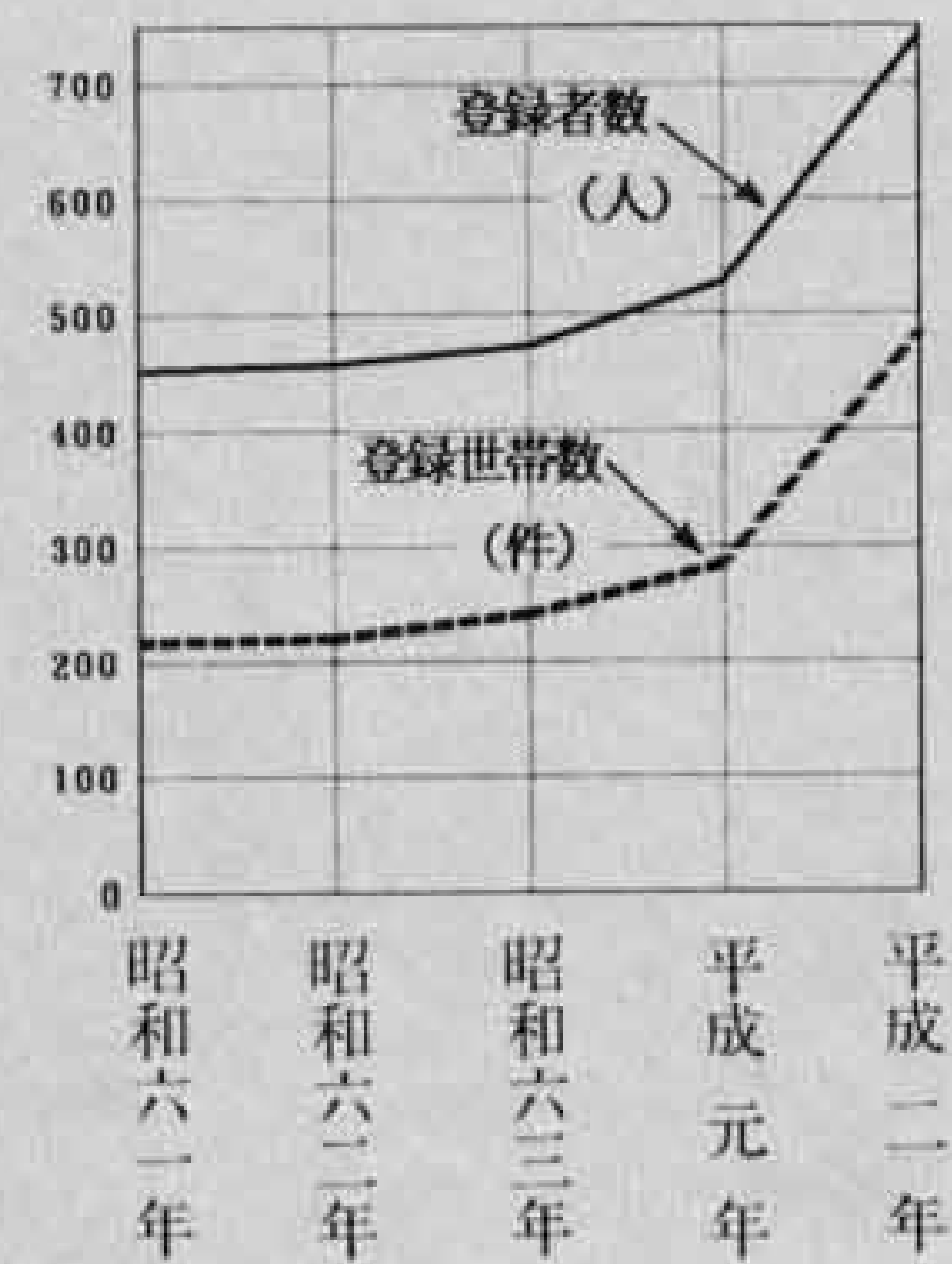
Q-4 ■「国際交流」と言う言葉から何を連想しますか。



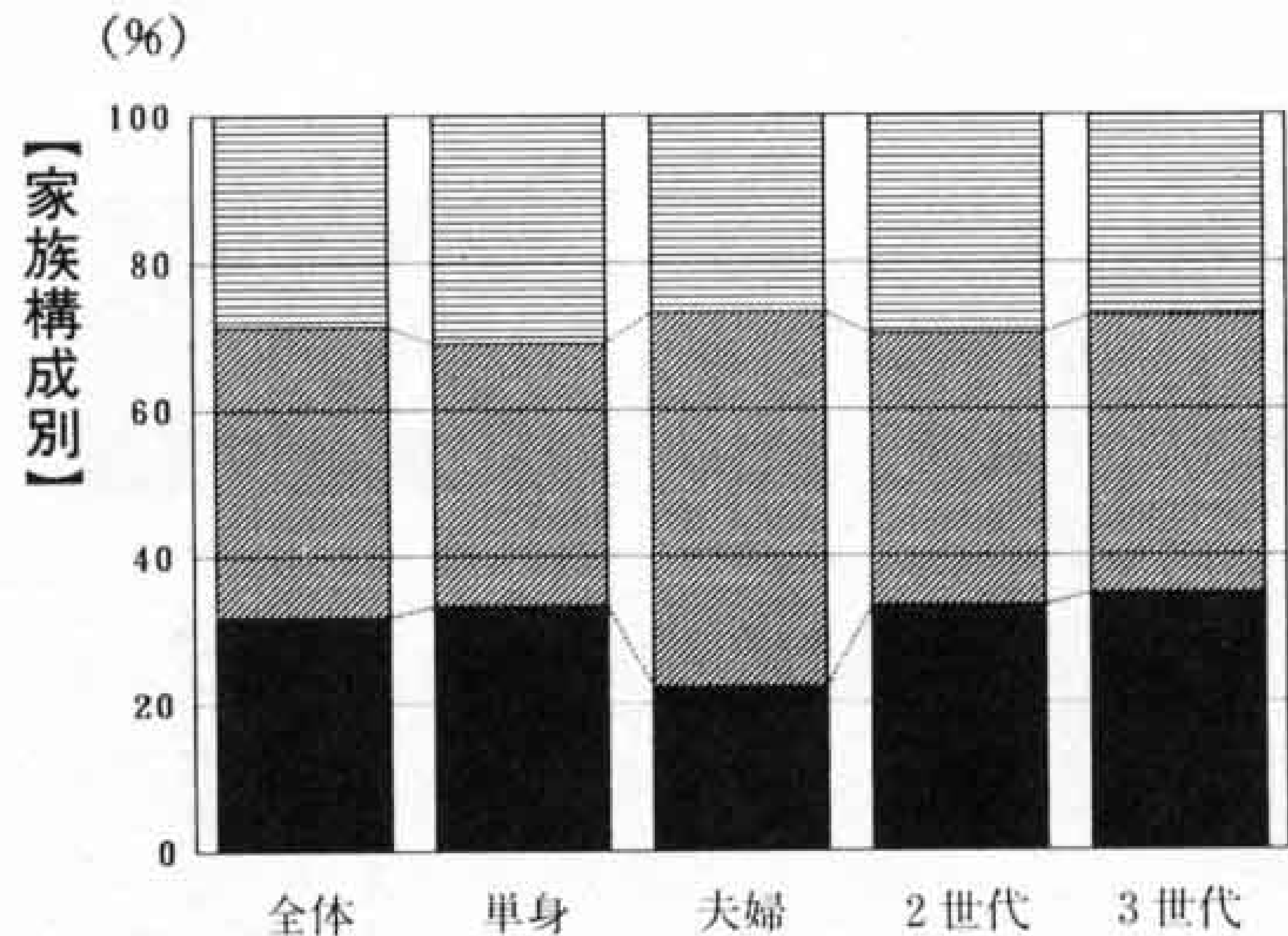
ホームステイ初体験・鈴木さん一家(富士岡)

ホームステイは初めての体験  
でしたから、私たちに少し気負  
いがありましたね。ああもこう  
もしてあげたいですね。  
でも大切なのは、相手の意向  
をよく聞いてそれに応じてやる  
ことなんだなと思ひました。そ  
れには語学の勉強も必要です。

ホームステイで知った  
本当のもてなしの心

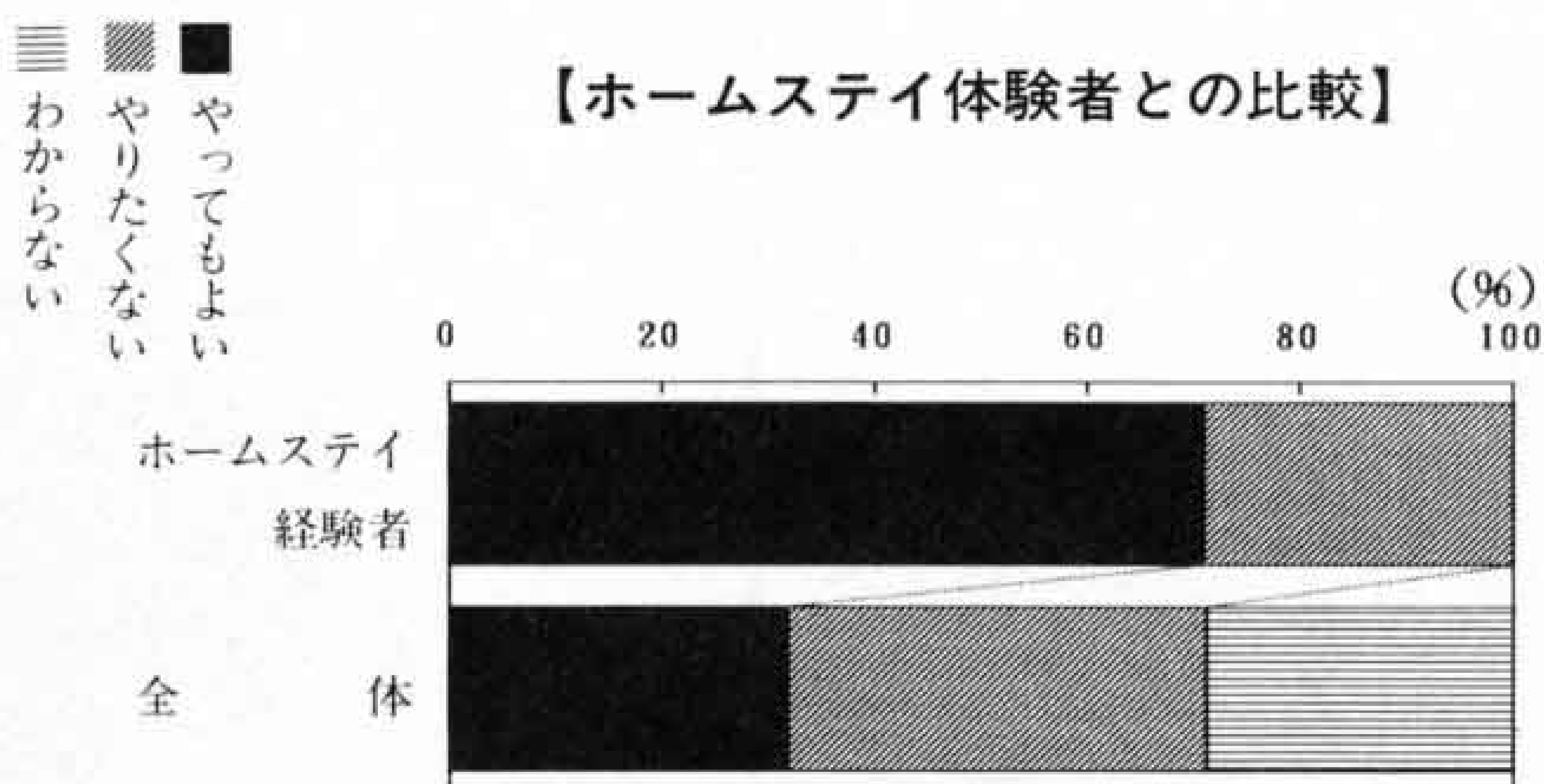


外国人が急増しています  
富士市に住む外国人は二月末  
現在で七百四十二人です。最近  
二年間で約二百六十人もふえて  
います。  
〔外国人登録の推移〕



【家族構成別】

【ホームステイ体験者との比較】



Q-7

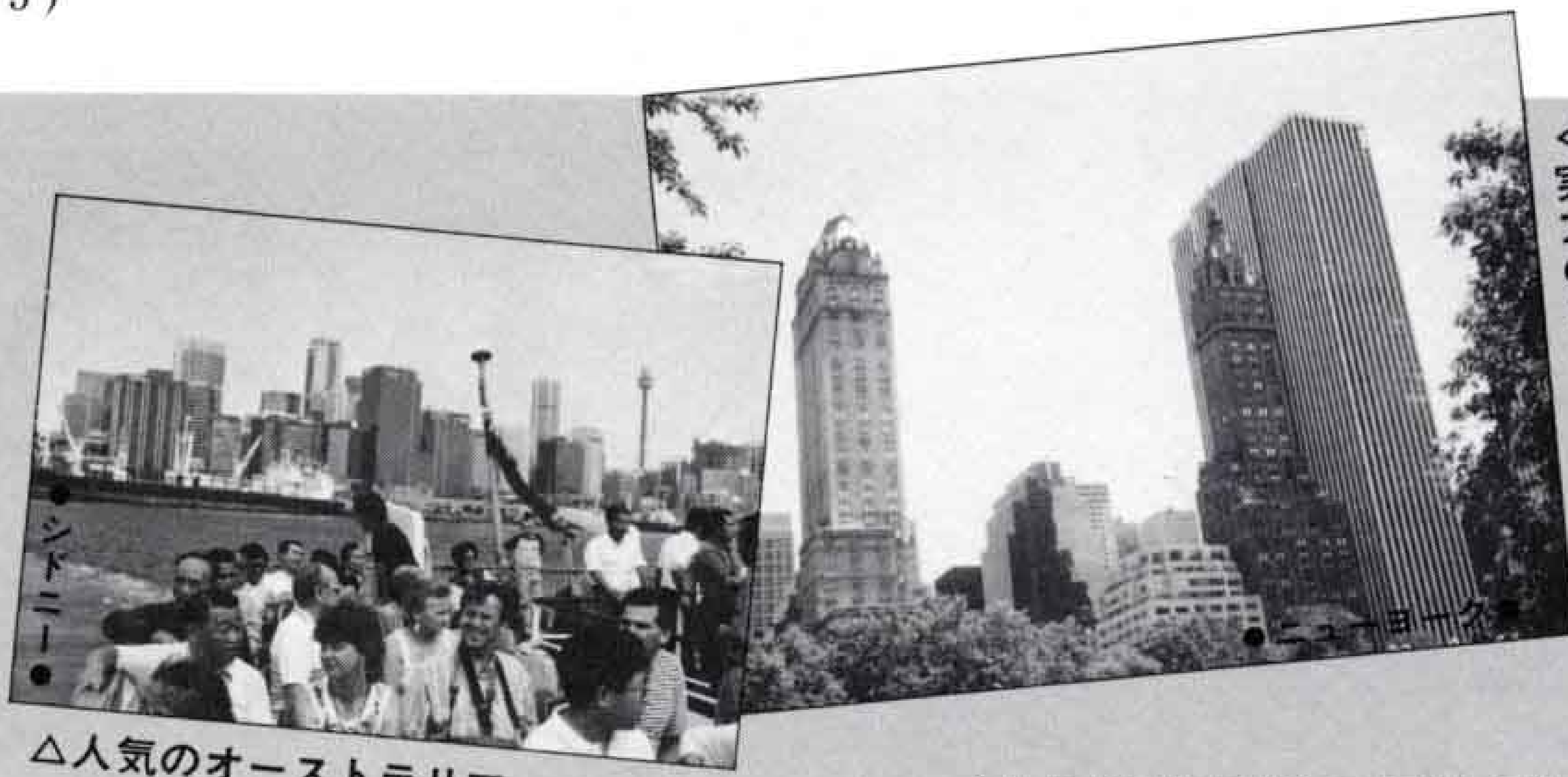
■近年、研修や留学、仕事等で富士市を訪れる外国人が  
ふえています。あなたはホームステイ（外国人を自  
宅に宿泊させて生の交流をはかる）をさせてみたいと  
思いますか。

ホームステイ、させて  
みたい。でも：

外国人を自分の家に宿泊させて  
生活を共にすることは、お互いの  
国の習慣や文化を理解し合う上  
で最も有効な手段の一つと言え  
ます。  
問七では、このホームステイに  
ついて、経験してみたいと思  
うかどうか尋ねました。全体で  
は「やってもよい」三一・八%、  
「やりたくない」三九・五%、  
「わからない」二八・七%の比  
率でした。  
これがホームステイを既に経  
験した人になると、「またやっ  
てもよい」が七一%にもな  
ります。一度は経験してみたい  
と思つている人は、ぜひチャ  
レンジを！

家族そろって  
もてなしを

問七の回答を家族構成別で  
みると、「やってもよい」で最  
も多いのが三世代（親と夫  
婦と子供）家族で三四・八%、  
続いて二世代（夫婦と単身）  
が三三・三%となっています。  
逆に「やりたくない」では  
夫婦だけが五一・一%と際立  
って多くなっています。



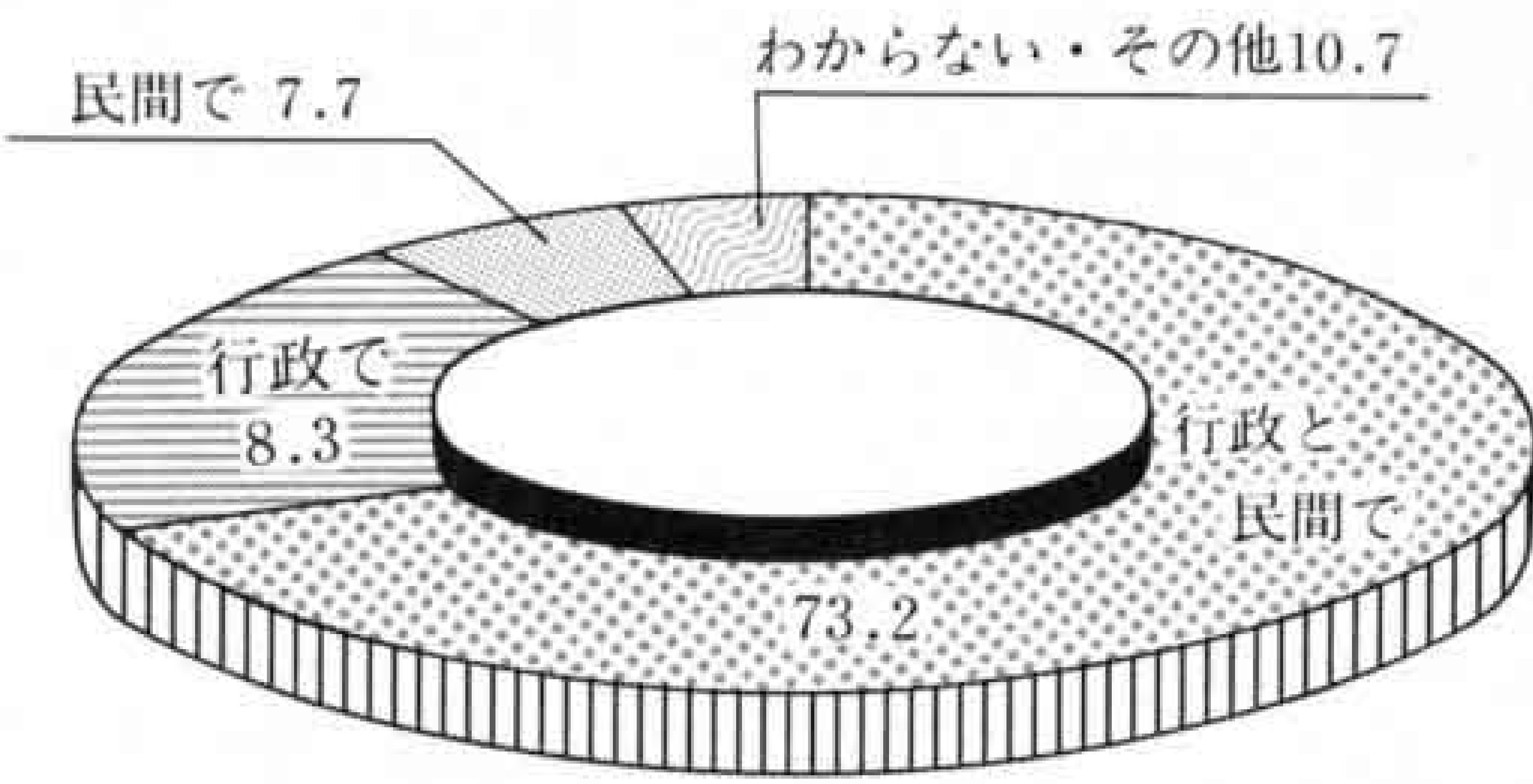
△人気のオーストラリア

△実力のアメリカ

(友好都市提携の候補は)



△富士市のアピール度No.1は何といても富士山



問九では、これからの外国との交流スタイルはどうあったらよいか尋ねました。

回答では「行政と民間が一体となって進めていくべきだ」が七三・二％と際立っています。続いて「行政が中心で」八・三％、「民間が中心で」七・七％の順でした。

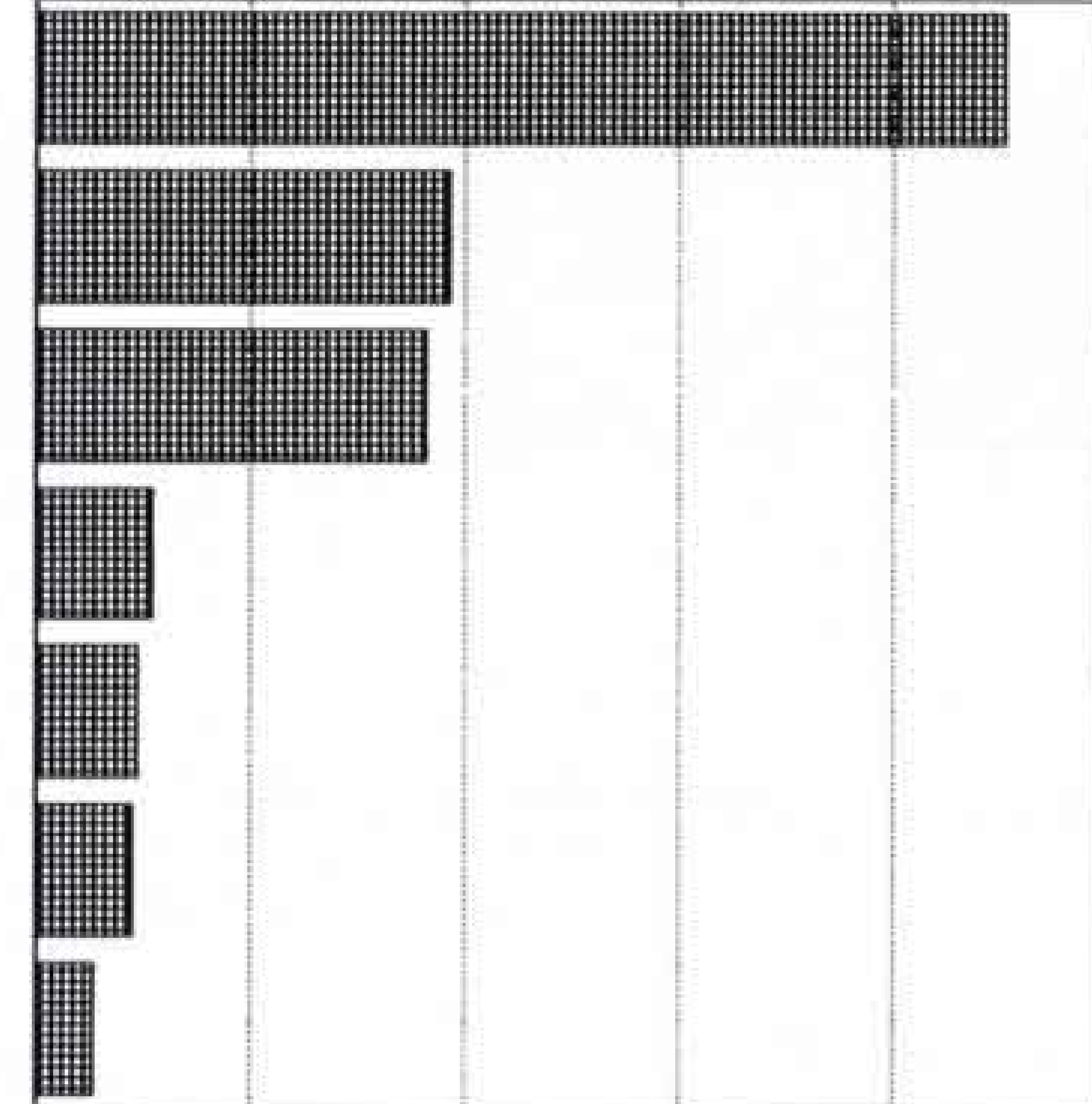
### 国際交流は 二人三脚で

### Q-9

■富士市には、民間団体である富士市国際都市交流協会があり、外国との文化・スポーツ、経済交流などが行われていますが、今後の国際交流はどのような形で進めていくべきだと思いますか。

- 富士山と自然
- 温暖な気候
- 産業や経済の発展
- 歴史や伝統
- 地理的条件
- 人間性
- 公共施設・その他

0 10 20 30 40 50 (%)



外国人に接する機会があったとき、あなたは自信をもって富士市を紹介できますか。そして何をアピールしますか。

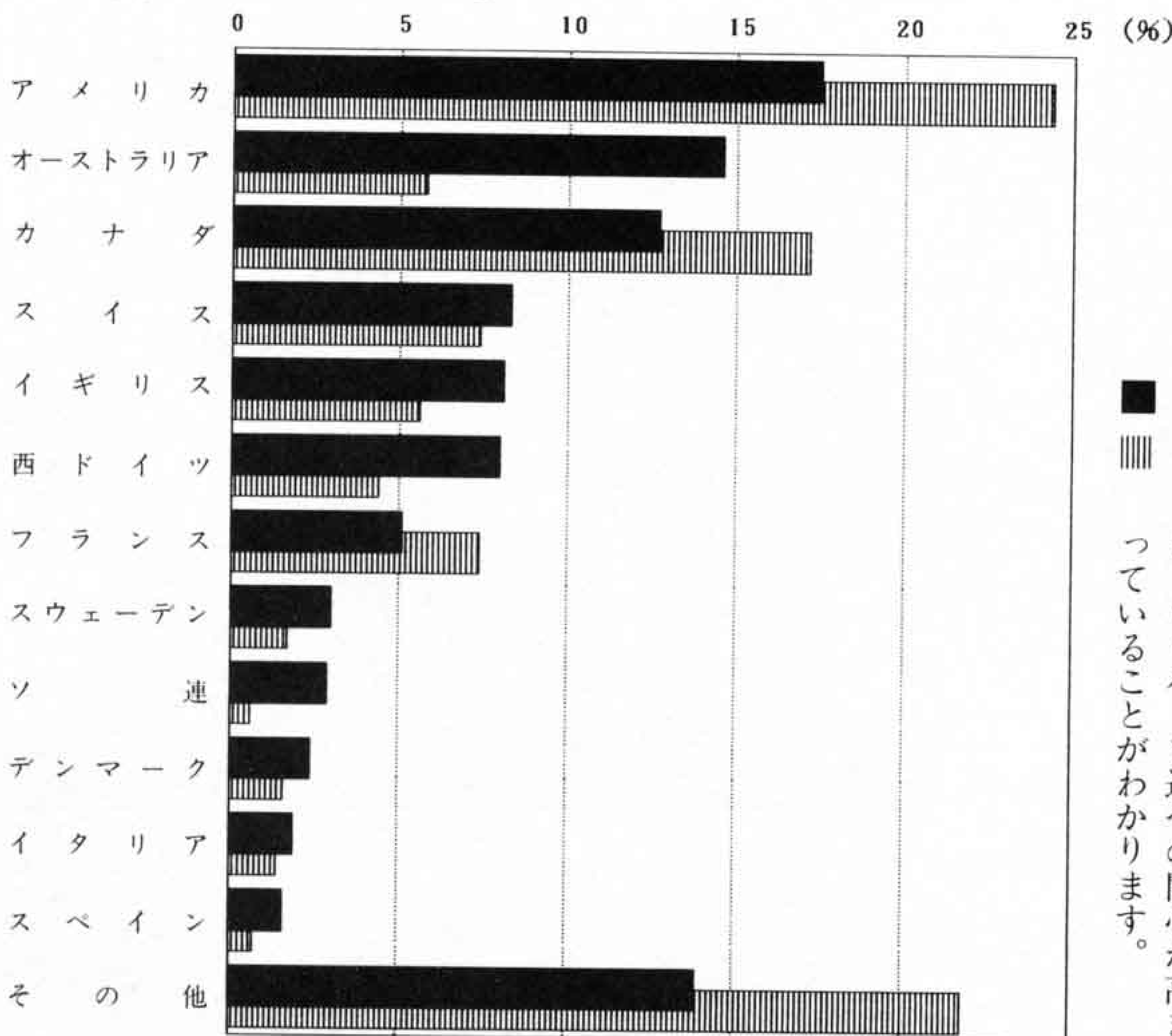
問八の回答は何んてったって富士山、全体の四五・二％を占めました。次が「温暖な気候」一九・三％で、両者を合わせると「富士市の自然環境」をあげた人が六四・五％に達しました。

### 何んてったって 富士山

### Q-8

■外国人に富士市をアピールするとしたら、あなたは何をあげますか。

【昭和54年度・世論調査との比較】



### Q-10

■市は現在、欧米諸国との友好都市提携を検討していますが、あなたはどの国がよいと思いますか。

■ 平成元年度  
▨ 昭和54年度

市は欧米諸国との友好都市提携を検討しています。そこで、皆さんの希望する国を尋ねてみました。結果は「アメリカ合衆国」一七・五％、「オーストラリア」一四・六％、「カナダ」一二・七％、「スイス」八・三％の順でした。これを昭和五四年の調査と比べると、依然としてアメリカ合衆国の人気強いことや、オーストラリア、ヨーロッパ、ソ連への関心が高まっていることがわかります。

### 実力のアメリカ 人気のオーストラリア

私の国、シンガポールは常夏です。だから以前から日本の四季にあこがれていました。

日本の人は外国人に「欧米人で、外国語に英語と考へがちですが、もう少しアジアの人たちを見つめてほしいですね。私の国では公用語が英語ですので小学生から勉強していますよ。」

**日本の四季にあこがれて**



斉藤アンナさん(横割)

妻と二人で英会話のレッスンを受けています。妻は外資系のコンピューター会社ですので英語が不可欠なんです。

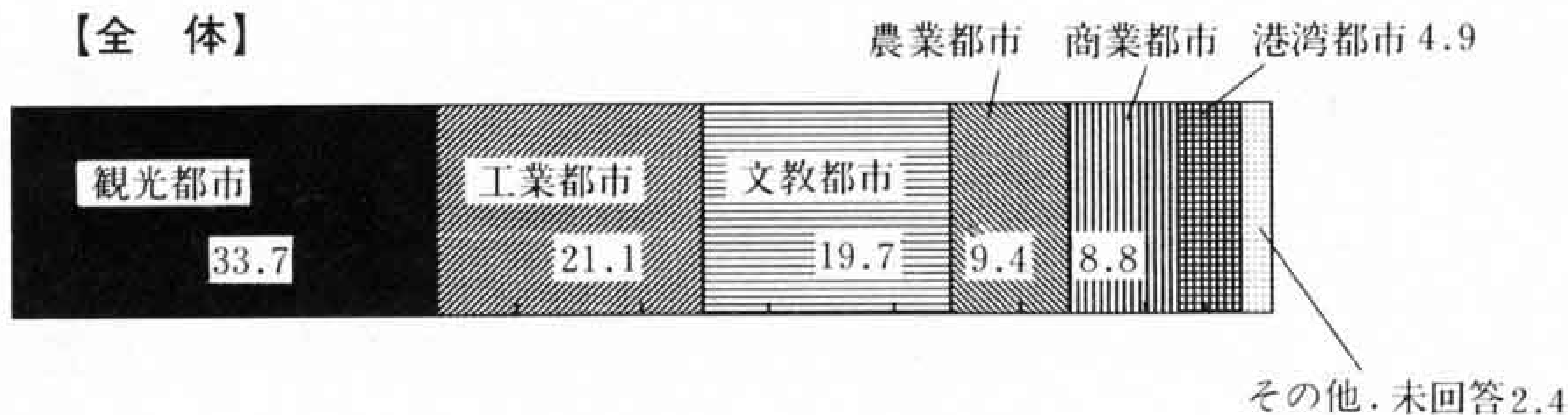
私は、外国人教師や教室での人との出会いを大切にしたいと思っています。

**妻は仕事で 私は友人をふやすため**



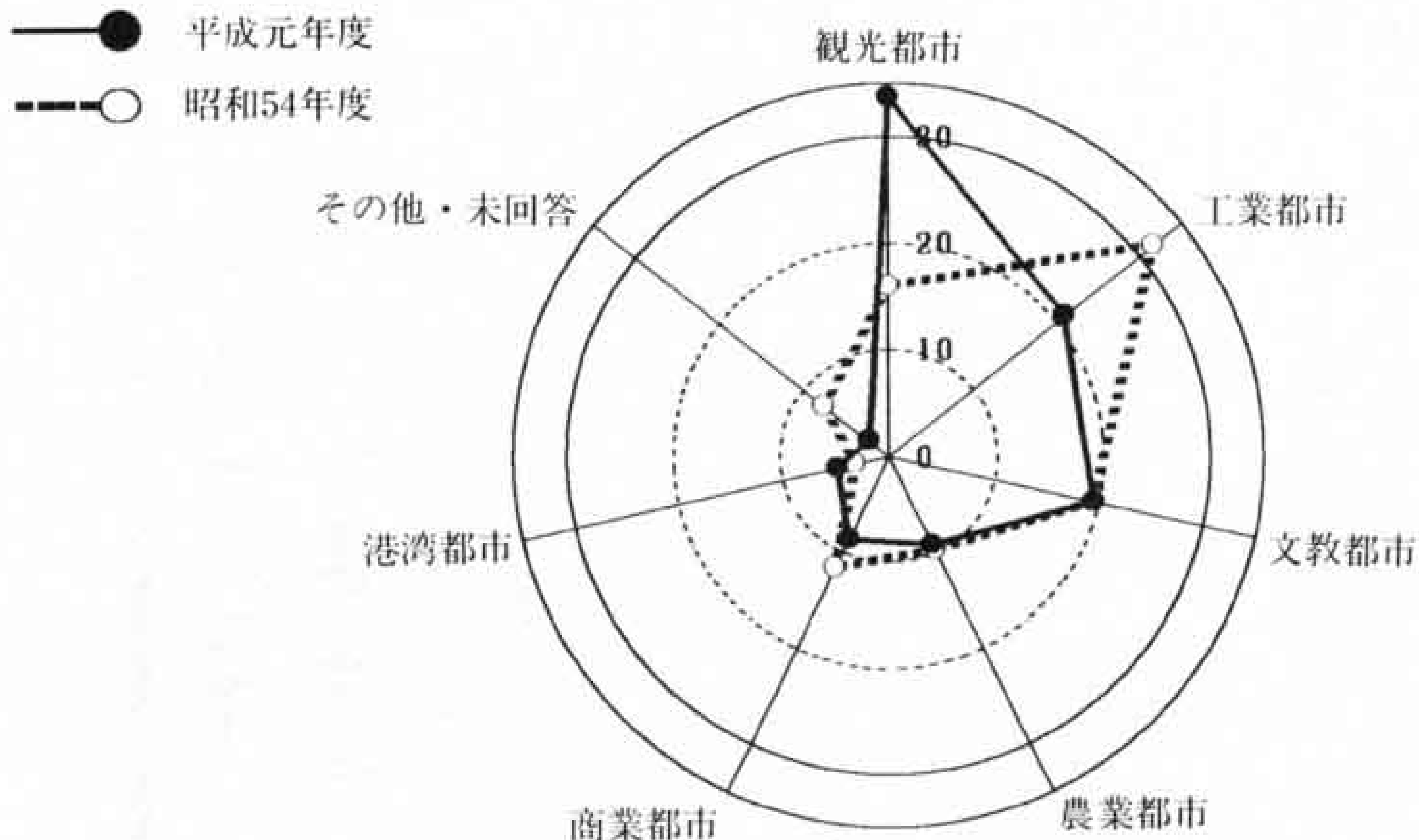
田中哲文・佳子夫妻(松岡)

**【全 体】**



**Q 10** ■では、その国のどんな都市がよいと思いますか。

**【昭和54年度・世論調査との比較】**



**どんな町? 海への向いへのパートナー**

次に、皆さんの希望した国のどんな都市をパートナーに選びたいか尋ねました。

一番多かったのが「観光都市」で全体の三三・七%でした。続いて「工業都市」の二一・一%、「文教都市」一九・七%、「農業都市」九・四%の順となっています。これを、昭和五四年の調査と比べると「観光都市」が著しく伸び、一方「工業都市」は三一・七%から一〇%強ダウンしています。経済成長からくる市民の心の変化がうかがえます。

**Q 11**

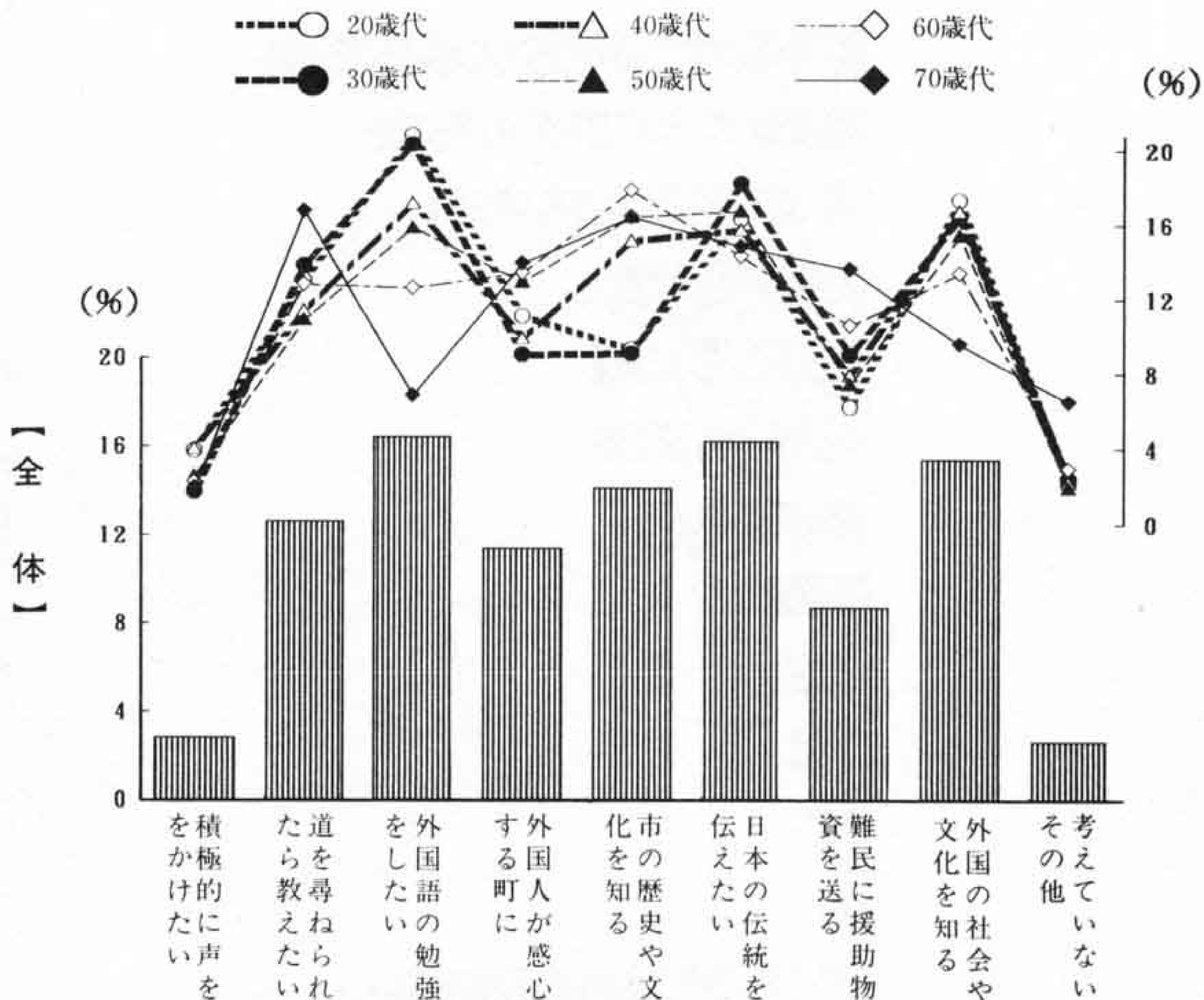
■今後、外国とのかかわりが深まってきた場合、あなた自身はどのような対応をしていきたいと考えていますか。

**語学をマスターして 本当の富士市を伝えたい**

これから、外国とのかかわりがますます深まってくると思われれますが、そうした折には市民の一人としてどのようにこたえていくのか尋ねてみました。

最も多かった答えは「簡単な会話ぐらいできるよう外国語の勉強をしておきたい」で一六・四%、次が「日本の習慣・伝統のよいところを正しく伝えたい」で一六・二%、「日頃から外国の社会、経済、文化等の正しい知識を身につけたい」一五・四%の順でした。このことから市民個人としては、語学を学び、外国を知り、そして富士市を知ることだと言えそうです。

**【年齢別】**

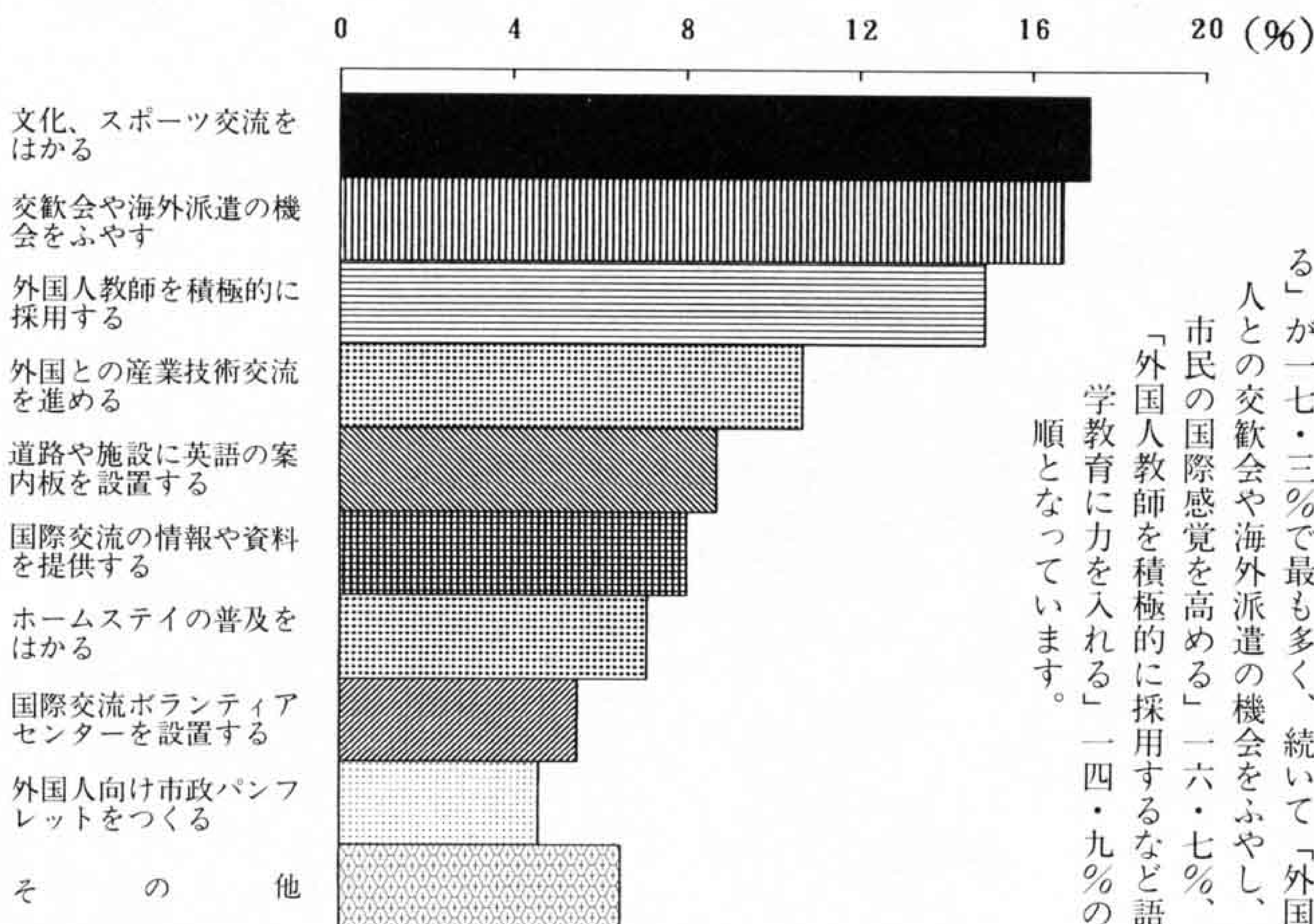


Q-12

■ これからも外国との交流を深めていくためには、市は何かから実行していくべきだと思いますか。

まず、文化・スポーツ交流を、それと外国人教師をふやしてほしい

問一では、外国との交流を深めていくために市としては何から実行していくべきか尋ねてみました。結果は「学術や文化、スポーツ等の交流をはかる」が一七・三％で最も多く、続いて「外国人との交歓会や海外派遣の機会をふやし、市民の国際感覚を高める」一六・七％、「外国人教師を積極的に採用するなど語学教育に力を入れる」一四・九％の順となっています。



言葉の壁を心で越えよう



木戸裕子さん(田子浦中学校)

一昨年の夏、アイルランドに単身赴任している父に会いに行った折、家族でフランスを旅したときのことです。フランス人は自分たちの国や言葉に誇りを持っているので、日本語はもちろん、英語もほとんど通じず、歯がゆい思いをしました。

日本人と話してきてさえ(私の気持ちも本当にわかってくれたのかしら)と心配になるのに異なった言語を使う国の人同士が相手の気持ちを理解しきるには、かなりの努力が必要です。

今、私達の世界では地球規模の様々な問題が続発しています。が、世界の国々が一つになって考え、言語のへだたりは互いを理解しようという気持ちで埋めあって、美しい地球を破壊から守らなければなりません。

私は、学校で英語を学んでいますが、将来できるかぎりの国の言語を身につけて、世界が理解と協力の上に一つになる日をめざしていきたいです。(国際理解・国際協力のための作文コンクール・国際連合協会県本部長賞作品から抜粋しました)

富士市国際都市交流協会を訪ねて...



松永真理子さん(今泉)

協会への入会はいつでも大歓迎です

協会にはだれでも入会できます。

関・国際交流に御理解のある方でしたらどなたでも大歓迎です。

一市民として参加できる活動にはどのようなものか？

関・会員の皆さんにボランティアをお願いしているわけですが、このボランティアには、通訳、ホストファミリー、コオ・オペレーターがあります。

コオ・オペレーターとは関・英語で協力者と言う意味です。外国との交歓会や各種のイベントのお手伝いをしていただく皆さんで、こうした位置づけは富士市独特のものなんです。

私も参加できそうですね。関・ぜひ、お願いします。

早く実現したい

英語圏との友好都市提携

英語圏との友好都市提携が話題になっていますが、関・そうですね。早く実現したいですね。昨年、通訳ボランティアの皆さんの協力で英語版観光マップをつくりましたが、今後こうした活動を通じて受入れ体制を整えていきます。そのためにも国際交流基金の設置が必要ですね。

国際都市交流協会のモットーとは何でしょうか。

関・一言で言えばホスピタリティ(受入れの心)ですね。国際交流とは、つまるところ人と人との出会いですからね。



国際都市交流協会 常任理事 関 政雄さん



3月10日に行われた国際交流フェア

問い合わせ 52-0995 (富士商工会議所内)